



北極星[★]

日本山岳ガイド協会ニュースレター

第2号

2023年10月発行

発行・差出人：(公社)日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6-9

丸藤ビル2階

編集：広報委員会

(公社)日本山岳ガイド協会の協会内広報誌(ニュースレター)「北極星」第2号に掲載された、IML(国際マウンテン・トレッキング・ガイド)に関連する特集記事を抜粋します。

IMLって何？

語り手：恩田真砂美さん (JMGA理事)

聞き手：岩本(広報)

“IML”最近よく耳にするワードです。担当の恩田理事にズバリ聞いてみました！



Q1. IMLって何の略？また、その意味は？

IML=International Mountain Leader 国際マウンテンリーダーハイキング・トレッキングガイド資格のことです。ハイキング・トレッキング分野での国際組織であるUIMLA (Union of International Mountain Leader Association) の資格です。



UIMLAロゴマーク

2020年11月にJMGAがUIMLAに加盟し、日本で唯一IMLを認定できる団体となりました。

現在の加盟国は22カ国、また加盟志望する国は7カ国あります。

加盟国 (22カ国)	ヨーロッパ：アンドラ、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、スイス、チェコ共和国、ドイツ、スペイン、フランス、英国、クロアチア、イタリア、北マケドニア共和国、オランダ、ポーランド、ルーマニア、スロベニア、スロバキア、スウェーデン(新)
	南米：アルゼンチン、ペルー
	アジア：日本
アスピラント加盟国 (7カ国)	ボリビア、チリ、ギリシャ、ハンガリー、ネパール、ノルウェー、米国(新)
交渉中 (1カ国)	中華人民共和国

Q2. 国際ガイドとどう違うの？

国際山岳ガイドはバリエーションルートなど世界の高峰や登攀要素のある難易度の高い山々をガイドすることのできる資格です。国際マウンテンリーダー（IML）は氷河のない山域、かつ行動にロープ技術を要さない（*危急時には使用）ハイキングやトレッキング、積雪期のスノーシューのガイドができる資格で棲み分けがなされています（*スキーガイドは不可）。日本においてはその棲み分けをより明確に示すため、理事会でも協議し日本語の名称をあえて「国際マウンテンリーダー ハイキング・トレッキングガイド資格」としました。

Q3. 誰でもIMLになれるの？

登山ガイドステージⅡ、およびステージⅢ、山岳ガイドステージⅠ、およびステージⅡの有効な資格を持っている方であれば以下の条件で誰でもIML資格を取得できます。

- 登山ガイドステージⅢ、山岳ガイドステージⅠおよびステージⅡ
..... 2日間の机上研修の受講で認定
- 登山ガイドステージⅡ
..... ガイド活動日数合計29日以上（うち積雪期は6日以上）の経験を有し、2日間の机上研修と3日間の実技研修を受講、基準を満たしている方を認定。

（*ただし登山ガイドステージⅡ+スキーガイドⅡの方は机上研修のみ）

IMLはJMGAの主たる資格への付帯資格となります。JMGAでの主たる資格を取得する際に必要となる日数、実技内容をUIMLAの規定にすり合わせて上記の内容としています。

IMLって何？

Q4. 研修の内容を教えてください！

- 机上研修(2日間)：資格概論、アウトバウンドのガイディング実務・
危急時対応・計画立案、インバウンドのガイディング実務・コミュニケーション・計画立案 など。
- 実技研修(3日間)：雪洞構築、積雪期ナビゲーション、雪上でのガイディング技術 など。



UIMLA資格認定証

Q5. 資格更新の方法は？

主たる資格の付帯資格となるため、主たる資格（登山ガイドステージⅡ、およびステージⅢ、山岳ガイドステージⅠおよびステージⅡ）の更新でIMLも同時に更新されます。

Q6. 会員へのメリットは？

ハイキング・トレッキング分野での国際資格であるため、加盟国においてはガイド業務が可能となります。

(*ただし、各国における労働VISAは別であるため、現時点では訪れる

IMLって何？

国の条件を確認し順守することが求められる。

UIMLA本部では、2022年11月より各国の労働条件に関する調査を開始しており、将来的には加盟国間でより自由に相互乗り入れができる環境が整いつつある。) JMGAでは、今後さらに成長が見込まれるインバウンド需要を取り込むための基盤作りの一環としてIML資格をとらえており、IMLの資格を起爆剤として段階を踏んでインバウンドの流れを作ること考えています。まずは来年4月にインバウンド向けのHPを公開予定です。

まだまだ日本の山＝富士山という認識が根強いので、日本全国に個性ある山域がたくさんあることを発信し、将来的にインバウンドの需要を各地方へ広く分散させていければと考えています。

今後は、ローカルなエリアで活躍されているガイドの方々にとってもメリットの大きい資格になるように準備しています。

Q7. IMLの顧客は？

アウトバウンド：日本人で、海外のハイキングやトレッキングに興味を持っている方。

インバウンド：外国人で、日本のハイキングやトレッキングに興味を持っている方。



Q8. お金は稼げるの？

インバウンドに関する環境作りの一環として、まずはIML認定者の日当とレシオを決定し、2023年4月13日の理事会で承認されました。

*表参照：IML認定されたガイドにおいては、インバウンドに対してこの規定で交渉・請負するため、より稼ぐことのできる資格となっています。

IMLの日当がJMGAガイド基準日当（1日30,000円）と比べると高い印象です。

Q9. 金額設定の経緯があったら教えてください！

円安や欧米諸国と日本の物価上昇率の差を考慮しEUなどの相場を参考にして、欧米諸国の水準に合わせた価格設定を試みました。

	対象エリア(標高)	ガイドレシオ	報酬(日当)
無積雪期	2,500m以上	5名以下	70,000~80,000円
	2,500m以下	7名以下	60,000円
	1,000m以下	10名以下	60,000円
積雪期	2,500m以上	5名以下	100,000円
	2,500m以下	7名以下	80,000円
	1,000m以下	10名以下	70,000円

インバウンドに対しては決して高い値段設定ではないと考えています。インバウンドの顧客には、良い内容であればいくらでも支払いたいという嗜好を持った富裕層も存在しています。

特別な経験や機会を提供できる企画立案こそ求められていますので、この基準日当を超えての販売も積極的に行っていただければと考えています。

IMLって何？

アウトバウンドの仕事をしなないガイドにとったらUIMLA加盟によって、外国人ガイドが日本に流入してきて商売の敵が増えるのでは？

Q10.長期的に捉えた恩田さんの見解を教えてください！

確かに相互乗り入れによって競合が増える可能性はあります。その中で選ばれる魅力的な企画とは何か、が求められてくると思います。

外国人ガイドに人が流れる企画であれば、それは自分たちの企画に魅力がないためであるにとらえて、日本人である自分たちにしかできない深みのある企画とは何かを掘り下げていく良いチャンスではないでしょうか。

むしろ長期的に見て日本人ガイドであること、また地方でローカルなエリアを紹介できることなどが強みとなって繋がっていきだろろうと考えています。

恩田理事ありがとうございました！

最後にひと言おねがいします。

IMLはアウトバウンド、インバウンドともに今後の広がり可能性のある資格です。

また、取得後は認定者を対象としたオンラインでのブラッシュアップ講習会（無料）などを開催し、情報交換の場も提供しています。ぜひこの資格をみなさまのビジネスにお役立ていただければと思います。

